

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	地域に溶け込む内容を盛り込んだ、理念の見直し検討を行っていききたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	現在地域との情報交換等も行われているが、ミーティング等においても常に意識を持たず努力をしたい
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	○	地域の参加のある運営推進会議や地域との行事等を通し、オアシス便りの掲示、家族への配布を通して理念等、浸透させていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	近隣施設等の行事に積極的に参加し、コミュニケーションを図る。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	町内にあるコミュニティセンターを活用し、また町内で開催される行事等情報収集を行い、今後積極的かつ気軽に参加できるように支援していききたい。

沖縄県(グループホームオアシス)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	当法人における病院祭行事等において、高齢者への講演会を行い、また南風原町社協からの依頼に対する講師活動を行っている。また地域の敬老会については、東新川自治会と合同にて実施。	○	地域と家族、職員で勉強会などを通し、認知症、対応の仕方など話し合いながら、勉強会に取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を通してケアサービスの見直し、再確認、要改善に向けて話し合いを持っている。	○	改善すべき点、さらに今後、改善したい点などを見直し改善に向けて取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域関係者、利用者家族を含め運営推進会議を開催しサービスの報告、意見等を参考にサービスの向上に向けて話し合いを行っている。	○	地域の行事等の動きや各種情報収集を行いながら、事業所で活用可能な内容を利用できるようにする
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南風原町の担当課と相談が行なえる環境があり、必要に応じて連絡が行なえる。	○	対象利用者情報の確保に向け、随時情報交換を行っている
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人における年間教育スケジュールをもとに研修を実施している。	○	研修や勉強会等に積極的に参加し、職員全員が共通理解し活用できるよう話し合い、研修報告会等を開催していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人教育における研修会への参加を行い、法令施行に関する情報提供を実施。	○	施設独自における虐待防止についての勉強会を行ない、ケアの確認を行なう。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>契約の際には管理者が、利用者・家族に重要事項説明書と利用契約書をもとに説明を行い、文書により同意を得ている。</p>	○	<p>管理者、及びホーム担当の相談員を含め、利用者や家族の意向を十分に聞き、理解、納得が得られるよう努めている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>日常の会話からの聴衆及び運営推進会議への利用者の参加機会を準備し、また意見箱の設置等で常に意見が言える環境を準備している。法人からの相談員の配置も実施している</p>	○	<p>利用者、職員との信頼関係を深め意見や不満、苦情などが気軽に出来るよう取り組んでいきたい。アンケートによる情報収集</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>ホーム内に写真を掲示したり、面会時には利用者の暮らしぶりや健康状態等について常に報告をしている。また、身体の変化、薬の確認、行事等、個々に合わせた報告をしている。</p>	○	<p>オアシス便りの発行等を通し、活動内容などを把握してもらい今後とも行事や面会の機会を増やしてもらうよう努めたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>苦情、意見箱の設置を行い対応しており、気軽に意見、苦情などが話せるよう面会時には、声掛けをしている。また、ケアプラン面談時や運営推進会議等をどうして意見を聞き取り、意向に添えるようにしている。</p>	○	<p>家族の意見、不満、相談等が気軽に出来るよう管理者、職員、相談員は今後とも信頼関係を構築していきたい。また、その意見が反映できるようミーティング等で話し合い、結果を家族に伝えることができるように努めたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>毎月のミーティングや業務内において、運営に関して職員の意見や提案を聞き必要に応じ計画、反映されるよう努めている。</p>	○	<p>今後も、運営者と連携を図りながら、職員の意見や提案を聞き入れるように努めたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>利用者の状況変化時は超勤などで対応してもらうこともあり、また必要な時間帯、職員の確保が出来るよう話し合いや勤務調整を行い柔軟な体制を整えている。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>利用者への精神的ダメージを最小限にするため、異動や離職時には引継期間をおき必要な説明は最小限に伝え、影響への配慮を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修や勉強会等を受ける機会が確保されており、人材の育成と支援が行われている。</p>	<p>○</p> <p>今後、職員全員が、研修に参加できるように支援していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者会議やグループホーム見学会、研修会を通して同業者との連携を行っている。また、食事に関しては職員による他施設訪問見学等も行い職員全体での改善にも取組んだ事例もある。</p>	<p>○</p> <p>今後も同業者との親睦を深め、情報交換やサービスの質の向上に繋がるよう努力していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>福利厚生によるリゾート施設の活用、及び共済会行事への参加を実施。</p>	<p>○</p> <p>同業者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入の検討もして行きたい。法人職員、全体を対象とした企画も進んで参加していくよう努めたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>日々の法人事務所への出入のさいに相談を行ったり、常に状況把握を行っている。各種研修の案内等情報提供へも務めている</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初期の段階では不安なことが多く、出来るだけ本人の不安なこと、求めていることに「気づき」が出来るよう話に耳を傾けたり、側に付き添ったりコミュニケーションを多く持つようになっている。</p>	<p>○</p> <p>出来るだけ早い段階で利用者の求めていることに「気づき」が出来るよう、利用者との関わりや信頼関係の構築に向けて職員全員で取り組んでいきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には実施調査、面談等により家族が抱えている悩みや不安を十分に聞き入れ緩和できるよう相談に乗ったり、受け止める努力をしている。</p>	<p>○</p> <p>初期の相談は、家族にとっても不安が大きいため、安心して相談できる環境作りを目指したい。</p>

沖縄県(グループホームオアシス)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	相談時、本人と家族の状態により必要とされるサービスを見極め情報提供や助言等を行っている。	担当相談員との連携を図り、今後もしっかりとした支援方法の対応が出来るよう努めたい。
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	サービス開始前には、出来るだけ本人にホームの見学や体験をしてもらい安心・納得した上でサービスの利用を行っている。また、環境変化で混乱してしまわないよう家族とも相談の上、面会の頻度を増やしてもらうなど協力を得ている。	○ 家族にも面会の機会を増やしてもらい、利用者、家族も含めて職員とホームに馴染んでもらえるよう支援していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	常に同じ目線で、共同生活を行う一員として時には励まし合い、支え合い、喜びを分かち合うなど関係が構築されている。	○ 利用者の生活暦やアセスメントを見直し、情報収集し過去の経験を生かしたケアに努めたい。業務を行いながら、少しでも多くの利用者へ、ふれあい関係を築いていきたい。
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	主体は利用者の生活支援であり、家族とは常に同等で利用者のより良い暮らしの実現に向けて常に話し合い、共に考え支えあっている。	○ 利用者のホームでの生活を面会時やオアシス便り、電話連絡などで状況を把握してもらい、常に協力してもらえるよう今後も取り組んでいきたい。
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	本人と家族のより良い関係作りが継続できるよう、時には仲介役、代弁者としてサポートし関係調整に努めている。	○ 利用者と家族の関係調整に努め、時には仲介者、代弁者としてサポートし今後も利用者の笑顔が見られるよう支援していきたい。
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	直接的に職員からの働きかけは少ないが、家族側から親しみのある友人や知人との関係が継続できるよう面会や外出の機会を作っている。	家族の協力を得ながら、また利用者の過去の背景を十分把握し関係継続の支援に努めたい。
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	日課活動や日々の生活を通して、他者との交流が図れるよう働きかけており、また困っている人や介助が必要な人の手助けが自然にできる等、支え合っている。	○ 今後も孤立する利用者がないよう、利用者同士の関係を把握し関係調整に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p> <p>契約終了の時点で他の病院へ長期入院になっているケースが多いが、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には定期的な面会の機会を設け関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。</p>	○	<p>契約が終了した場合、次に利用できるサービスや必要とするサービス等を紹介し、今後も関係継続が出来る体制にしていきたい。</p>
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> <p>利用者一人ひとりの思いや意向が表出できるよう話に耳を傾け、気持ちが汲み取れるようにしている。また、感情表出が困難な利用者に対しては本人の立場に立ち、本人本位であるよう検討している。</p>	○	<p>一人ひとりの思いや暮らしが続けられるよう、本人本位であることを主体に利用者のペースに合わせて支援していきたい。</p>
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p> <p>過去の生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境は入居前の実施調査及び入居後も日常会話や観察、日々の生活場面において聞き出している。</p>	○	<p>今後も利用者一人ひとりの生活歴、背景、生活環境等を十分理解し、把握した上でサービスに努めていきたい。</p>
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p> <p>業務に入る前には必ず記録物に目を通し、一人ひとりの心身状態等を把握し現状に合った過ごし方を行えるよう努めている。また、本人の出来ること、出来ないことへの見極め、限界を知ることが大切だと実感している。</p>	○	<p>利用者一人ひとりの健康状態、心身の状態、有する力を十分把握し、今後も能力維持が支援できるように努めていきたい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> <p>各担当者、及び計画作成担当者により、介護計画を作成しているがその際には、本人や家族が求めていることニーズに即したケアの在り方など、本人や家族から聞き出したり関係者と話し合いを持ち計画に反映している。</p>	○	<p>担当者以外、他の職員の意見や気付きが出来るよう会議の開催やミーティング等を通して利用者の理解を深めたい。</p>
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> <p>介護計画の期間終了時や、本人の状態変化が生じた際には見直しを行い新たなニーズに対応できるよう、介護計画を作成している。</p>	○	<p>今後、状態の変化が生じた場合は、迅速に対応し介護計画作成時には家族の意向、利用者中心とした計画を作成するように努めていきたい。</p>

沖縄県(グループホームオアシス)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録、経過表に日々の様子やケアの実践、結果、気づきを記載しており、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	今後も、利用者の変化などに気づき、常に、情報を共有できるように努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、状態に応じ必要な支援があれば関係者で話し合いを持ち、事業者の協力を得ながらサービスの活用をするなど、柔軟な体制を整えている。	○	事業所の協力を得ながら、介護部門や看護体制を活用し支援できるよう体制を整えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会長からの提案による還元施設の活用検討や、南風原社協との連携のなか利用者との活用を検討している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向、必要性に応じて他のサービス活用支援まで至っていないのが現状である。	○	今後、地域で利用できるサービスやケアマネジャーとの連携を図りながら、必要とされるサービスが活用できるように支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通して、地域包括センター関係者と交流があるが、権利擁護等については、把握していない部分もある。	○	地域包括センター関係者に、権利擁護等についての勉強会等を通し交流を深め、協力体制を築いていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の日程管理を行い、また、総合病院や専門医など入居者それぞれが通い慣れた信頼できる医療機関があり、必要時には適切な医療が受けられるようかかりつけ病院を設けている。		他科受診の際は現在服用中の調剤票を持たせ次の医療機関での受診や治療が安心して行えるよう支援しており、今後も本人、家族の要望を大切にし適切な医療が受けられるよう支援していきたい。

沖縄県(グループホームオアシス)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科病院と併設のため、認知症に詳しい専門医がおり診断から治療、相談や助言を受けることが可能である。また、受診時や専門医の勉強会等を通して気軽に連携が図れる。	○	今後、定期的に行われる認知症の勉強会に積極的に参加していきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制を整えており24時間、利用者の健康管理や状態に応じて医療の活用ができるような看護支援体制を整えている。	○	担当看護師との連携を図り、常に利用者の健康状態の把握に努めていきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院となった場合は、出来るだけ転院先でのダメージが少なくなるよう情報提供を行い、また、早期退院に向けて医療機関関係者との情報交換や相談など連携を図っている。		今後も医療機関との情報交換や相談などを積極的に行い、利用者の安心した生活支援に努めていきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、医師、看護師、介護士など関係者と対応について話し合いを持ち、その都度家族とも相談し意向を尊重している。	○	重度化した場合やターミナルケアについては、本人、家族の意向を再確認し関係者で方針を共有できるよう取り組みたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療連携における指針をもとに対応しており、主治医をはじめ施設としての支援方法や取り組みについて話し合い確認をしている。	○	終末期に向けた取り組みについて話し合い、今後に備えて対応マニュアルの整備を進める。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者と十分な情報交換と話し合いを持ち、「移り住むことへのダメージ」が軽減できるよう住み替えの際は、利用者が大切にしている物や必要とする物を持たせ安心感を持たせている。		ケア関係者で十分な話し合いを持ち、利用者が安心して過ごせるような環境作りに努めたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの人格を尊重し、不快感を持たせないような言葉かけや態度、表情に気をつけている。また、個人情報の記録など取り扱いには十分気をつけている。	○ 今後も、プライバシーの確保、その人らしく暮らして行けるよう職員同士、情報交換し声掛けや対応に気をつけていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望が表出できるよう、時にはゆっくりと時間をかけたり理解が出来るよう説明を繰り返し行うこともある。自分で選んでもらったり選ぶ場面を極力作るよう努力している。	利用者の希望を汲み取り、自己決定の場面を極力作り納得した暮らしが出来るよう職員全員で考えていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主体のペースとなる事もあるが、一人ひとりのペースを大切に出来るだけ希望に添えるよう支援している。	○ 一人ひとりの残存機能を維持しながら日々どのように暮したら楽しく過ごせるか、希望を取り入れていけるように支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好みにより外出時は化粧をしたり、好みの服を着たりおしゃれを楽しんでいる。また、利用者の馴染んだ美容院へ家族と共に行っている。	身だしなみやおしゃれが楽しめるよう、またその機能を失わないよう個々の個性を大切に、家族の協力も得ながら支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者は一緒に食事を摂っており、又、食材準備・調理や片付けにおいても出来る力を見出しながら時には見守ったり一緒に行ったりしている。	○ 食事支援についてはまだまだ課題はあるが、一人ひとりの力を見極め活かしていけるよう取り組んでいきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	それぞれの嗜好があり、本人の好みを十分に把握しつつ一人ひとりの状況や要望に合わせて楽しめるよう支援している。	その時々々の状況や要望、嗜好に合わせ支援しており、今後も満足のいく生活が送れるよう継続して支援していきたい。

沖縄県(グループホームオアシス)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表もとに、個々の排泄パターンを把握している。排泄の自立に向けて支援しており、必要に応じて声掛け、誘導、介助を行っている。	○	個々の排泄リズムを把握し、排泄の自立支援に向けて日々、取り組んでいきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	業務の流れで決められた曜日、午前中に入浴を行っているが、本人の希望がある時は合わせて入浴を楽しめるようその都度、対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない時には話しをしたり、共に過ごしたりと安心感が持てるよう支援している。また、入眠前に本人との談話の時間を設け不安の軽減を図っている。	○	利用者一人ひとりの生活習慣を十分把握し、それぞれの状況に応じて対応できるよう努めたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台所の手伝いや掃除、洗濯物たたみ等それぞれが役割を持ち楽しみとして行っている。また、その役割や楽しみごとが次へのやる気と自信に繋がるよう励ましたり場面作りを行っている。	○	今後も出来る力を見だし、生活意欲の向上が図れるよう職員一丸となって取り組んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じてお金の所持をしてもらっており、好きな時に好きな物を購入できるよう支援している。また、お金を所持する事で安心感に繋がっている事もあるので、家族とも相談しながら行っている。		本人や家族の意向を大切に、相談や確認を行いながら安心感に繋がるよう支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物時、職員と出掛けるようにしているが、それ以外にも希望があれば戸外に出掛けている。	○	その時々希望に添えるよう、外出支援で気分転換や生活の活性化を図っていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブや野外レク活動などを取り入れ、普段行けない場所への外出支援を行っている。その際には、家族やボランティアなど参加の呼びかけをしている。	○	利用者がリフレッシュし楽しみにしていけるように、今後も外出支援に努めたい。

記入日:平成21年1月23日

沖縄県(グループホームオアシス)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には、家族や大切な人に電話の利用をしたり介助を行っている。また、毎年年賀ハガキを直筆で書いて送ったりと要望に添えるよう支援している。		家族や大切な人との繋がりや交流を大切に、安心感が持てるよう電話や手紙の支援を今後も続けていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人が訪問して来た際は、ゆっくりとくつろげるようお茶を提供したり、居室や居心地良く過ごせるような場所の声掛けを行うなど工夫している。		家庭的な雰囲気の中でゆっくりとくつろげ、安らぎが持てるよう支援していきたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険法指定基準に沿っての把握はまだ不十分であるが、全職員が身体拘束のないケアを実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、常に玄関を開錠しており自由な空間を保っているが、安全性を考慮して一時的に施錠する場合もある。		事故防止に努め、開放的な空間を保っていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の安全が常に確認できるよう、利用者のそばで記録を行ったり、調理の際にも利用者の様子が分かる位置で行うよう心掛けている。		プライバシーに配慮しつつ、利用者の自由な生活を大切にしながら安全確認を怠らないよう見守りしていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所や管理に関しては、職員同士注意深く行っており個々に応じた対応をしている。		各利用者の状態に応じて危険物の排除が出来るよう、職員間で話し合いを持ち対応していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のための研修を受講したり、マニュアルなどで知識を得ている。また、研修報告会で伝達、話し合いを持っている。	○	今後も、事故がないよう転倒への注意、誤薬の防止など、職員間で話し合いを持ち事故防止に向けて再確認したい。

沖縄県(グループホームオアシス)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>消防を交えた救急法の実施訓練に参加、受講している。スタッフ全員が、緊急時に対応できる心構えと技術を身につけていく必要があるので全員が受講できるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>急変時に対応ができるよう意識し、職員同士、常に急変時の対応について話し合いを持ちたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回、消防への通報を含めた訓練と、自主訓練を行っている。また、日中、夜間を想定し災害対策に備え実施している。</p>	<p>○</p> <p>災害がおきた場合、地域への協力願いやなど運営者に確認し、協力願いの働きかけに努めたい。</p>
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>予想されるリスクにおいては、家族等へ十分な説明を行い同意を得ている。抑圧感のないくらの継続が出来るよう関係者で常に対応策を検討している。</p>	<p>○</p> <p>今後も起こり得るリスクについては、家族と十分な話し合いを持ち納得した上で利用者本人が抑圧感の無い暮らしを継続できるよう支援していきたい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>体調の変化や異常のサインをすぐにキャッチできるよう、日々の状態観察は怠らないようにしている。また、その状態を確実に記録に残しており異常時には、迅速に対応できるよう努めている。</p>	<p>日頃より、利用者の日々の体調や変化に気が付きが持てるよう、体調確認を行い迅速な対応に努めていきたい。</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>お薬説明書により効能・副作用等を把握し、正しく服用できるよう注意深く投薬している。薬の変更時は、記録、申し送りを行い服用後は、症状の変化など観察を行っている。</p>	<p>○</p> <p>服薬支援の際は、職員同士ダブルチェックを確実にを行い誤薬を防ぎ、また、症状の変化や観察をしっかりを行い効果や効能等、十分理解できるよう努めたい。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>毎朝、ラジオ体操を取り入れ身体を動かす働きかけを行っている。また、食物繊維の豊富な野菜を献立に入れ工夫しており、便秘時には水分補給を多めに促し、スムーズな排便ができるように働きかけをしている。</p>	<p>○</p> <p>今後も、栄養バランス、水分補給、適度な運動等を取り入れ、便秘を起こす場合は主治医と相談し薬の調整をしてもらうよう支援していきたい。</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>食後の歯磨き、義歯洗浄など自分の力で出来るよう誘導したり付き添い支援している。毎食後、確実にに行われており又、週1回～適宜ポリドントにて義歯洗浄を行っている。</p>	<p>利用者の力や能力に応じて、口腔清潔の保持が出来るよう今後も支援していきたい。</p>

沖縄県(グループホームオアシス)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェック表にて、それぞれの摂取量を把握しており栄養の過多や減少がないよう状態に応じて代替えの食べ物や飲み物で対応している。また、10時、15時には水分補給を欠かさず行っている。	○	栄養士にカロリーの確認、栄養のバランス等、相談し支援してもらう。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに基づいて実施。インフルエンザ流行前には予防接種を受けたり、ノロウイルス等感染症の対策としては手洗いを励行し、食品の取り扱いには十分注意をしている。	○	家族の協力のもと、インフルエンザの予防接種を行う。また、家族の希望により接種を2回行っている。感染症予防のため、ご家族の方がいつでも閲覧できるよう感染症マニュアルを置き情報提供を行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や食器洗いスポンジ等の消毒は、ハイターにて付け置き洗いを毎日行っており食器、布巾、包丁等に関しても常に衛生管理には十分配慮している。	○	今後も徹底して調理器具の衛生管理を行い、食品の取り扱いや使用などには十分注意し、安全管理に努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物が病院敷地内の3階部分にあり、階段もしくはエレベータの使用になり不便な面も感じられる。玄関回りには小さな庭園と長椅子の設置をし、くつろげる雰囲気作りをしている。	○	玄関前の庭園の環境整備を行い、そこでくつろげる雰囲気にしていけるよう努めたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさや光の強さに対する配慮としては、利用者の意見や反応を見ながら落ち着きを持てるよう配慮している。また、壁には四季折々、季節感のある絵を飾ったりと居心地よく過ごせる空間作りをしている。	○	今後も、生活感や季節感を取り入れて、居心地の良い環境づくりに努めたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ではみんなでテレビを見て過ごし、昼間やリビングのソファ、廊下の長椅子など思い思いにゆっくりくつろげる居場所がある。		

沖縄県(グループホームオアシス)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みに合わせて手作りの手工芸等を飾ったり、写真を置いたりして居心地よく過ごせるよう工夫しているが、個性を生かせる部屋作りについては、利用者の希望確認に試行錯誤している。	○	現在、入居中の利用者の方は今の環境に慣れてしまっているため、部屋の模様替えをすることに抵抗がある。今後、入居する方の家族には、使い慣れた物を持ってきてもらうように、契約時に話し取り入れていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常時、居室やホーム内の窓を開閉し換気をこまめに行っており、冷暖房の調節も、利用者の体調や気温などに配慮し適切に行っている。また、冬場の入浴時は脱衣所に暖房器具の使用を行い、風邪対策の為にリビングでは加湿器の使用を定期的に行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心、安全な生活が送れるようホーム全体はバリアフリーで、各要素には手すりの設置があり、ホーム全体の空間も大きく自立した生活が送れるよう支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を招かないよう、さりげなく声掛けをしたり説明を行い安心、自立した暮らしの継続が出来るよう対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先の庭園やベランダに草花を植え、水撒きを行い成長を楽しみにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホームオアシス)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 併設である精神科病院に、認知症に詳しい専門医がおり、また、医療連携体制も整えているため利用者の病状変化等について相談、助言、又は適切な医療など、迅速な対応を受けられるのが私達ホームの特色だと思います。また、利用者の日常の健康管理や医療面では常に情報を共有しており、ご家族の方も安心して医療の活用支援を受けられるホームだと感じています。
- 女性が多い中で、入居者と職員とのコミュニケーションが良くとれており、施設感を感じさせない雰囲気を持つホームだと思います。